

入会申込書

会員種別	年会費
• 一般会員	3,000円
• 賛助会員 1口	10,000円 <input type="text"/> 口
• 特別会員(職人・作家)	30,000円

いずれかの欄を囲んで下さい。賛助会員は何口か書き込み下さい。

会の主旨に賛同し、ここに入会いたします。	
年 月 日	
(団体名・企業名) 氏名	印
住所 〒	—
電話番号	()
生年月日 明・大・昭・平	年 月 日 (歳)
職業	
ご興味のある工芸品分野、作品展、その他ご意見、ご感想	

お手数ですが上記の申込書を工芸ギャラリー愛海詩までご持参あるいは封書にてお送り下さい。尚、お送り下さった場合は、下記の口座へ会費をご送金下さい。愛海詩の会事務局の者から追って連絡させていただきます。

北海信用金庫 西野支店
普通口座 0607532
口座名義 愛海詩の会



作家を囲んで茶話会の様子

お支えいただいている会員諸氏、愛海詩に心を寄せて下さっている方々に深く感謝申し上げます。みなさんの思いと作り手の思い、そして私の思いが響き合い、山脈のように連なり、作り手が良い作品を創作できますよう、そしてみなさんの生活に潤いを送れますよう、そのように願い、語り、働くことを初心に戻って務めようと思う。

(会報50号より)



★年間の詳しいスケジュールのお問い合わせは工芸ギャラリー愛海詩までご連絡下さい。また随時ホームページをご覧頂ければ幸いです。

工芸ギャラリー愛海詩
主宰・佐藤睦子

〒064-0821
札幌市中央区北1条西28丁目2-17
電話・FAX(011)613-1112

http://www.emishi-s.com
E-mail:kougei@emishi-s.com



えみし
工芸ギャラリー愛海詩

愛海詩の会

- 北海道の文化を育てる一翼となる。
- 人々の暮らしを豊かに彩る。
- 作り手(職人・作家)とお客様とのかけ橋役になる。

「愛海詩の会」は作り手、使い手、各々の生活を豊かに成すために、その技と心を育むことを基とし、一人一人の生活が心豊かなものになるよう、文化的働きを推進することを目的に発足しました。

この会の事務局、本拠を札幌市中央区北1条西28丁目2番17号(北海道神宮表参道)、工芸ギャラリー愛海詩内に置き、個展、常設等、文化的活動の本拠とします。

ギャラリーでは、1階の常設展会場、2階の個展会場を設け職人、作家の作品を常に発表できるように整えております。

愛海詩の会の構成

1 会員は一般会員、特別会員、賛助会員の3部門で構成します。

(イ)一般会員は工芸品に興味を持ち、会の目的に賛同下さる方。

(ロ)賛助会員は手仕事の大切さを認識し、その技の向上に期待し、会の目的に賛同下さる方。個人、企業、団体を問いません。

(ハ)特別会員は自ら工芸品を制作し、作品発表や、販売等、それに伴い自らの技と心を育むことを目的とする職人、作家の方。

2 入会の条件と特典

(イ)一般会員は年会費3千円とし、会費相当の作品購入チケットをお受け取りいただけます。また、会の発行する会報等を送付し、ギャラリー愛海詩の企画を知ることができます。

(ロ)賛助会員は賛助金1口1万円以上で、特典は一般会員と同様です。

(ハ)特別会員は年会費3万円とし、ギャラリー2階(約8坪)で年1回13日間の個展を開く事ができます。会の発行する会報を送付します。



工芸ギャラリー愛海詩 玄関

愛海詩の会、会報より

「羅針盤はあるのか？」自身の問いかけに、「羅針盤はこの胸の奥にある、思いと願い、自然の真理」そんな自問自答が確かにあった10年前、私はこのギャラリーを開いた。広い海原に小さな小船で漕ぎ出すような感があった。

10年を振り返り、よくここまで漕いで来たなあーと感慨無量である。これも偏に陰に日向に励ましを下さるみなさんのおかげと深く感謝申し上げる。自分一人の力ではこの仕事は続けられなかったと思う。

その時々、お一人お一人があって今のギャラリー愛海詩があるのだ。みなさんに育てていただいたと思っている。心も新たに、もう一度ギャラリー愛海詩のあり方を見直し、見定めなければいけない。冷静に、豊かに、前向きに11年目を漕ぎ出そう。職人、作家の働き、思いを身近なところで知る者の一人として、ゆるがせにできないところは胸の奥に常に持っているべきだと思う。

まずは羅針盤にたまった埃をふくところから始め、今日も明日もあさってもゆるぎなく坦々と仕事をする、その積み重ねこそ尊いことなのだ。

(会報45号より)



ギャラリー愛海詩企画の講演会



ギャラリー1F 常設の様子



ギャラリー2F 作品展の様子

愛海詩の会、会報より

人生は出会いの中で良いものを観、側におき、あたかも良いものの海で泳ぎ、遊ぶようにしなければ良いものは解らないし、精神を昇華することもできない。(会報38号より)

遊びの中には迷いのない囚われない自在の心がある。体と心がコロコロ鳴るような一流の遊びができる大人は、学びと教養を積む。その学びが遊びそのものなのだ。そこから、幅広い視野、豊かな発想、もっといえば創造的な感性が生まれる。それは砂漠のような乾いた心にも水を与え、その人なりの一輪の花を咲かせるのだ。

なるべく一流と接すること、音楽、美術、そして工芸もしかりである。一流が分かれば物事の区別がつき、その本質が見えてくる。本物と出会い、付き合い、知って行く。それは血となり、肉となり、一流の遊び心に育てられて行く。(会報41号より)